

「2つの捉え方」について

「2つの捉え方」は黄リー教の p.163 「助動詞の先後（＝一般助動詞→have 助動詞→進行形を作る be 助動詞→受身を作る be 助動詞の順番に並べる）」をはっきり意識すると、よりわかりやすくなりますね。

そうですね。「辞書の捉え方」と「学校文法の捉え方」が併存しているのは進行形と受身と完了準動詞だけですから、進行形と受身を比べながら読むのは理に適っていますね。

-
- 1, 活用の2つの捉え方（辞書の捉え方と学校文法の捉え方）
 - 2, 各活用形の可能性（原形が5つ、現在形と過去形が各1つずつ、過去分詞形と ing 形が各4つずつの限定列举）
 - 3, 助動詞の先後（＝一般助動詞→have 助動詞→進行形を作る be 助動詞→受身を作る be 助動詞の順番に並べる）

Frame of Reference（英語構文の判断枠組み）は「品詞と働きと活用」で構成されています。このうち「活用」は上の 1, 2, 3 を理解して、自在に使いこなせれば完全にマスターしていると言ってよいです。

そもそも F.o.R. 一般に言えることですが、「マスターしていると言ってよい」などと上から目線でお墨付きをもらわなくても、マスターすれば自分で「すでにマスターしたな」とはつきりわかります。それを常に使いこなして読み書きしているからです。

F.o.R. 検定テスト初級問題の問2は主として上の 1, 2, 3（つまり活用の考え方）を習得しているか否かを見る問題です。

1 周目を終えた方（あるいは1 周目の途中の方も）はまず「F.o.R. 検定テスト初級問題の問2」だけでもやってみて「活用をマスターするということは、こういう設問が自在に答えられるようになるということなのだ」ということを実体験すると、その後の勉強の指針になり、より効率的に黄リー教を進められます。

なお「F.o.R. 検定テスト初級問題の問2」の全ての設問を完璧にすらすら答えられるようになれば、どんな英文を読んでも「活用をどう考えたらよいかわからない」ということは一切なくなります。

was being carried を辞書的に捉えたときに

was は助動詞・過去形

being は助動詞・ing 形

carried は過去分詞形・述語動詞・①

と考えれば良いですか？

carried は過去分詞形・述語動詞・－③です。